

## 令和4年度第6回学長選考・監察会議議事要旨

- I 日時 令和4年11月10日（木）9:50～11:15、11:20～11:52、12:00～12:07
- II 形式 Web会議（於：第2会議室）
- III 出席者 相澤議長、井口委員、植木委員、黒水委員、千年委員、戸田委員、近藤委員、  
笹原委員、梶田委員  
（陪席）  
角井監事、大橋監事、神谷事務局長、鈴木総務・経営企画部長、今野総務課長、  
松本総務課副課長、石松総務課専門職

議事に先立ち、総務課長から本日のスケジュールの説明があった。

### IV 議事要旨

#### 1 審議事項

##### （1）令和4年度第5回議事要旨（案）の確認について

議長から、配付資料に基づき令和4年度第5回議事要旨（案）について説明があり、これを確認した。

##### （2）候補者の最終選考、学長候補者の決定について

議長から、次期学長候補者の決定は合議により行うが、合議により決定することができなかったときは投票を行う旨の説明があった。

#### ①被推薦者との面談

被推薦者から20分間のプレゼンテーションがあった後、質疑応答を行った。

（委員の発言は「委」、被推薦者の発言は「被」と表記する。）

委：教育に対する方向性が明確ではないと感じる。学生からのフィードバックをどのように掬い上げるのか。

被：学生に教授する教育の基本は、情報リテラシー教育（対話）の部分と考えている。学生/教員相互が意見交換をしながら教育研究活動に参画できる、他大学や海外とも意見交換できる機会を提供することも必要と考える。

委：大学をつなぐようなムーブメントをおこなえばと考えているが、そこに学生の意見をどう取り入れるか、卒業生が誇れる大学として社会の発展にどのように貢献するか。

被：一つのアプローチとして近隣大学と連携して博士課程を設置している。専門が異なるところと繋がっており、海外に目を向けている。海外研究者の招へいだけでは農工大のプレゼンスは上がらない。これまで輩出した留学生を基盤として、関係する大学を糸口として海外に進出し、社会問題解決のアクティビティを広げたいと考える。

委：DXデジタルトランスフォーメーション人材の育成につながる独立した学部はない。どうやってこういう人材を育成するか。

被：重要なのは実質的にそのような人材を育てられるかである。本学の強みから考えると、農学工学が一体となった分野がこれからの社会をつくる基盤になると考えるので、その教育プログラムを強化していく。新学部といった形から作るのでは

なく、実質的な面からアプローチすることを考えている。

委：独立した学部を打ち出すことが、人材養成により直線的につながるのではないか。

被：農工大の体力を踏まえれば、学部は作れると考える。現在はBASE学府の下に学部がない状況がある。BASE学府は現在の複合的な社会課題に対応できる力があるので、こういった形で教育研究を進めることが社会の発展につながるかを検討している。

委：学長ビジョン実現には資金確保が前提となる。一時的な募金活動ではなく、恒常的な資金獲得の施策を進める必要があるのではないか。

学：その面では同窓生との関係強化を考えている。例えば寄附をした卒業生が製作している物を返礼品にするといった形で、同窓生のネットワークを使っていくことを始めている。また、農工大を愛するOB/OG教員に広報活動をしてもらい、これを奨学金として学生に配分するといった施策を検討している。

委：大学ファンドについて、国の方向性のあるべき姿に変える提案について教示願う。

被：本学は大学ファンドの対象として選定されるに相応しいと考える。大学ファンドが思い描く大学像と本学の目指すべき姿は重なっているので、大学ファンドへの申請は自然なものとする。本学は国立大学が目指すべき本来の姿を示す。社会の課題を克服するためには、社会の公益性と事業性を拡張し大学の知をそこに取込む必要がある。そのサイクルを回すためには、その中で資金循環することが必要となり、その資金が巡り巡って大学に回ってくる。こういったサイクルを実証する考えで臨んでいる。

委：国際的クロスアポイントメントを拡張したいとのこと、教員クロスアポイントメントはエフォート計算が難しいところがある。実績や見通しを教示願う。

被：民間とのクロスアポイントメントを実施しているが、時間ではなく仕事の定量的評価により調整している。海外の給与水準が高い場合も同様の交渉により本学の負担可能な範囲内で働いてもらう。

委：研究大学の強い方向性から取り残されるマイノリティの支援をどのように考えているか。

被：ダイバーシティとインクルーシブを大変重視している。数値目標だけではなく、包摂性と多様性を体現する大学となるべく活動を広げる。包摂性と多様性を実現した本学の姿をイメージすると、それによって必ず何らかのプラスの変化が生じてくる。そのイメージを念頭に組み込む必要がある。

委：ブランディングをどのように考えているか、学生をどうやって集めるか。

被：表面的には農工大の名前をどうやって広げるかといったアプローチがある。もう一つは実質的なブランディングの推進を考える必要がある。一例として海洋プラスチック問題や野生動物管理の問題など、大勢がやってない分野で地道な活動をする教員を支え、評価していくことが重要と考える。こういった活動の積み重ねが本学のブランディングに寄与すると考える。

委：農工大の弱みはどこか、それをどうするつもりか。

被：大学規模の問題がある。これは長短の両面があるが、中規模大学は事務の業務多角化への対応、国の施策に応じた学内規則等の改正といった面で多大のコストが生じている。こういった面では、規模の大きい大学の方がコストを低く抑えられる傾向がある。まずは自由に使える資金を回したい。自由に使える資金があればコストを補てんできる。また、人文社会系の力が十分とは言い難いが、

教育面において学生個々が、リベラルアーツを体幹に持てるかが重要となるのでこの面にも注力する。

委：学長ビジョン（特に教職協働の面）を進めるにあたり、教職員が十分に理解していることが必要となる。教育研究の現場で教員と協働する技術職員の方へ、どのようにビジョンを理解してもらい、大学に貢献している実感をもってもらうか。

被：教職協働が十分に浸透しているとは言い難い。そのため教職員との対話を進めている。事務職員（百数十人）との対話を行った。教職員の声を直にもらえることは重要と考える。例えば、農学部の技術職員とはワークショップの実施を通じた密な交流を行ってきたので、工学部の技術職員とも同様に行っていきたい。こういった交流の場における自由な意見交換を通じて、もっと現場の声を体感することが必要だと考える。

委：次期学長になった場合に、何を目指し、何をなすのか。フェーズシフトをする考えはあるか、それとも現在の施策を延長するだけなのか。

被：残り半年間は、財政基盤を確固とした大学に変えることに注力する。新たに学長となった場合には、今まで以上に本学が持つ人材や研究力といった面を外部に打ち出していくようにしたい。海外や地域社会への積極的な関与が、ブランディングにもつながると考える。本学からの発信力を高め、認知度を向上させるために、この点を大きく変えていきたい。また、大学経営の基盤継続といった面から、ガバナンス体制の面に十分な措置を講じたい。具体的には、自身が在職している時だけ本学が躍動することがないように、本学の次世代の経営を担う人材を養成していく。

委：フェーズシフトを図りたい部分を理解した。学長ビジョンについては、より明確に、更に丁寧な説明が必要と考える。分かり易く魅力的なものを期待する。また、研究大学に関する記述について、WPIや国際卓越研究大学として目指すべき水準をもう少し整理した方がよい。学内で既に様々な動きが始まっていると推察するが、それがWPIや国際卓越研究大学への実現に向けてどのようにつながるのかを提示することが望ましい。

## ② 討議

意向調査実施事務局長から、配付資料に基づき学内意向調査の結果について報告があった。続けて議長から、被推薦者との面談の内容、推薦書類等、所信表明会の評価、意向調査の結果を参考に総合的に判断して、次期学長候補者1名を決定したい旨の説明があり、合議により、次期学長候補者は千葉氏とすることを決定した。

## ③ 候補者の意思確認及び最終決定

議長から、千葉氏の意思を確認したところ、次期学長候補者となることについて承諾を得た旨の説明があり、審議の結果、次期学長候補者は千葉氏とすることを最終決定した。

## (3) 公表について

総務課長から、配付資料に基づき公表について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

#### (4) その他

総務課長から、本日の記者会見は、15時から本部管理棟3階の第2会議室で実施する旨の説明があった。続けて次回の本会議は、12月22日(木)16時開催を予定である旨の説明があった。

#### 配付資料

名簿	国立大学法人東京農工大学学長選考・監察会議委員名簿
スケジュール	本日のスケジュール
資料1	令和4年度第5回学長選考会議議事要旨(案)
資料2	候補者の最終選考、学長候補者の決定について
資料3	提出資料一式(推薦書、経歴・業績書、所信、同意書)
資料4	プレゼンテーション資料
資料5-1	公表について
資料5-2	次期学長候補者の決定について(学長報告用)
資料5-3	公表用資料(「経歴・業績」、「所信」)
資料5-4	学長選考の過程(記者会見用資料)
資料5-5	プレスリリース(顔写真付き)